



坂東 真理子

昭和女子大学
理事長・総長



1998年から2000年まで、オーストラリア連邦クイーンズランド州ブリスベンで総領事として過ごした。クイーンズランドはオーストラリアの東北地方でゴールドコーストやケアンズのようなリゾート地があり、ブリスベンはその州都である。

まったく土地勘もなければ知り合いの一人もいない国へ、年老いた母や思春期の娘を置いての単身赴任だったので、張り切ってというより悲壮な気持ちでの赴任だった。しかし2年足らずの間に多くの友人に出会い、助けられ、ブリスベンは留学や昭和女子大学のキャンパスのあるボストンに次いで懐かしい地となっている。

当時はまだオーストラリアでも女性の社会進出が始まって日が浅く、お互いに助け合おうという気持ちが強く、西も東も分からない私を多くの女性が助けてくれた。実業家のベティはゴッドマザーのように私をかわいがってくれ、各界の女性を紹介してくれた。その女性たちは今でも私抜きで「真理子のフレンズ・ネットワーク」をつくり、私が帰国した後も時々ランチなどで集まっているという。写真は3月3日の「ガールズデー・レセプション」に来てくれた裁判所長とクイーンズランド州総督夫人である。



ガールズデー・レセプション(おひなさま)にて。
中央が裁判所長、右が総督夫人

毎週のように講演やスピーチを頼まれ、得意でもない英語でせっせと日本を紹介した。現地の新聞に何度も大きく取り上げていただいた。また、アウトバックといわれる奥地や北の鉱山、リゾート地まで、招かれるままに各地に出かけた。



クイーンズランド工科大学での名誉博士号授与式

地平線が丸く見える荒野、世界遺産のグレートバリアリーフなど、日本とスケールの違う自然も大きな魅力だったが、素朴で温かい人たちとの交流が何よりの思い出である。



昭和女子大学での卒業式

帰国する際には州政府から名誉大使の称号を贈られ、写真のようにクイーンズランド工科大学からは名誉博士号を授与された。その時に贈られたガウンは昭和女子大学の卒業式で思いがけず役に立った。

遙かなる
ブリスベン